

公益社団法人日本経営工学会
第38期第2回理事会議事録

日 時： 2025年9月27日(土) 14:00～17:10

場 所： 早稲田大学早稲田キャンパス14号館801教室

出席者：(理事) 船木謙一, 皆川健多郎, 西野成昭, 竹野建夫(オンライン), 葛山康典,
石原良晃(オンライン), 市来寄治, 赤木宏匡, 竹本康彦, 大森俊一,
木内正光(オンライン)

(監事) 宗澤良臣(オンライン)

欠席者：(理事) 藤野直明, 野中朋美, (監事) 滝聖子

対面及びWeb会議システム(Zoom)を用いてのハイブリッドにより理事会を行った。開催前に出席者の音声や映像を確認した上で、議案の審議に入った。

議決事項

1. 入会承認の件

石原会員担当理事より、資料(G-1)に基づき、学生会員8名の入会の提案があり、全会一致で承認された。なお、関連して退会理由の把握については、引き続き検討していくこととなった。

2. 企画・行事委員会の人事について

竹野企画・行事担当理事より、資料(G-2)に基づき、企画・行事委員の選任が提案され、全会一致で承認された。

3. 2026年秋季大会の開催について

葛山大会担当理事より、資料(G-3)に基づき、2026年秋季大会開催会場が提案され、全会一致で承認された。

4. 2026年秋季大会の会場費の20万円超過について

葛山大会担当理事より、資料(G-4)に基づき、2026年秋季大会開催会場となるアクリエひめじの会場費が32万円となり20万円超過するが、アルバイトの不要や補助金の充実などにより、該会場での実施が提案され、全会一致で承認された。なお、2027年以降の開催曜日については、金曜日と土曜日開催の可能性についても検討をしていくこととなった。

その他

なし

協議事項

1. JIMA会勢把握の常態化について

船木会長より、資料(K-1)に基づき、学会の情勢を把握できる統計情報について協議した。各担当領域を基に、現状把握できているデータや今後把握すべきデータなどを検討し、以下のような意見があった。

- ・大会における発表数、論文誌における掲載論文数だけでなく、どのような発表や論文があったのかを把握する。

- ・会員のJIMAにおける活動(大会発表や論文掲載)だけでなく、他学会(関連学会)などの研究活動状況(研究発表, 論文掲載, 著書など)を把握する。
- ・各大学等で実施しているリカレント教育の状況を把握する。
- ・経営工学に関する共同研究と成功事例を把握する。
- ・大会のデータとしては、非会員の発表も数多く取得している。
- ・海外における経営工学分野の研究動向を把握する。
- ・会員のリサーチマップの活用を推進する。
- ・JIMAHPから、個別の研究室に繋がるようにする。これについては、次世代に対する情報提供とも関連し、「経営工学を学べる大学(学部, 学科)」として掲載する。
- ・学会会員データベースの更新を促す。
- ・会員情報と大会情報を紐づける。

その他

なし

報告事項

1. 2026年春季大会エクスカージョンに関するご報告

葛山大会担当理事より、資料(H-1)に基づき、2026年春季大会のエクスカージョンについて報告がなされた。秋季大会やHPでアナウンスをし、早めに予約を受け付け、参加者を決めていく意向を確認した。

2. 支部委員会からの報告

市来寄支部担当理事より、資料(H-2)に基づき、支部委員会の活動報告がなされた。支部長及び事務局長へのインタビューから、支部の特徴ある活動や課題が示された。すぐに着手可能な事項として、現状可視化がされていないユニークな支部の活動を、HPやWebの活用によって広域に紹介ができないかなどの意見が出た。過去の経緯を考慮しつつ、今後も継続して検討を進めていくことを確認した。

3. 産官学連携委員活動報告

赤木産官学連携担当理事より、資料(H-3)に基づき、委員会の活動報告がなされた。3団体連携打ち合わせについては、公共財整備、連携の利活用、高校生などへの呼びかけについて意見が交わされたことを確認した。今後の活動については、本年の秋季大会の開催に合わせて、いわて産業振興センターとの打ち合わせが実施されることが示された。これについて、大会プログラムとの関連付け等経営工学の認知度向上を検討いただきたいとの意見が出た。

4. 協賛事業に関する報告

大森国際・渉外担当理事より、資料(H-4)に基づき、協賛事業について示された。協賛事業については、基本的には人的及びお金の負担がなければ問題がないことを確認した。又、新規の協賛事業については、理事会でしっかりと把握していくことを確認した。

5. 会員数の推移について

石原会員担当理事より、資料(H-5)に基づき、2012～2025年における会員数の推移について示された。会員種別、年齢別、支部別で層別されたデータを視ることで、正会員数の減少や学生会員数の横ばいの傾向、正会員における大学と企業の比率など、感覚とデータの差異を確認した。

6. 学会誌刊行センターとの協議結果

竹本経営システム誌編集担当理事より、学会誌刊行センターとの協議結果の報告がなされた。実際に会って話をしたことで、過去より続く担当者に対する疑念が払拭され、システム誌編集フローの修正について同意を得たことを確認した。

その他

なし

業務執行状況報告

船木会長・皆川副会長より、代表理事及び業務執行理事として以下のような職務執行状況の報告があった。

・船木会長

経営工学関連 3 団体との新任役員顔合せと今後の連携方針を打合せ、日本ベンチャー学会会長他、役員の皆様との意見交換の実施、第 1 回オンライン研究セミナーへの参加

・皆川副会長

日本ベンチャー学会意見交換、オンライン研究セミナー参加、財務担当として各種支出に関する承認業務、関西支部支部長として支部行事の企画及び実施、日刊工業新聞社・月刊「工場管理」の三村編集長と企画についての打ち合わせの実施

議 長 船木 謙一 印

議事録署名人 宗澤 良臣 印